

＜高校生消費＞日本は携帯最多、パソコン最少…日米中韓調査

文部科学省所管の財団法人・日本青少年研究所などが8日、日米中韓の4カ国を対象にした「高校生の消費に関する調査」の結果を発表した。日本の親は他国に比べて子供の消費活動に干渉しない傾向が強く、ブランドや流行に敏感な日本の高校生の姿も浮き彫りになった。

調査は昨秋、4カ国の5395人を対象に実施。「親は小遣いの使い道を聞く」と答えた割合は日本が23.6%で▽韓国58.6%▽中国50.2%▽米国34.3%。「親はいつも節約精神が大切という」も日本が48.6%で、いずれも最も少なかった。

「テレビや雑誌の広告に影響される」は日本が56.5%で、米中韓は32.6～45.9%。「芸能人のファッションをまねしたい」「流行遅れの服は着ない」「ブランド品を持つと金持ちの気分になる」なども日本がトップだった。

携帯電話を持っているのは日本が96.5%と最多。最少の中国は63.4%。一方、パソコンを持っているのは日本が21.0%と最少で、米国の60.7%が最多だった。

一方「将来に備えて貯蓄すべきだ」は日本（88.4%）が1位。金銭感覚については95年にも調査したが「お金で権力が買える」は49.5%から29.1%に、「お金持ちの友達を持ちたい」は31.1%から18.6%に下がった。

同研究所の千石保所長は「拝金主義ではなくなってきた。社会の成熟を表しているのでは」と話している。【加藤隆寛】

<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/research/2008/gaiyo.pdf>

[高校生の意欲に関する調査](#)